

能勢町 次期教育大綱（案）

～「知と交流」で未来を拓き、一人ひとりのウェルビーイング¹を実現する、グローカルな学びのまち・能勢～

1. 基本理念

能勢町は、「子どもの権利条約」の精神に則り、すべての子どもが個人として尊重され、その意見が大切にされる「こどもまんなか社会」の実現を教育の根幹に据えます。

豊かな自然と歴史を「生きた教材」として活用しながら、小中高12年間の一貫教育と生涯学習の循環を通じて、自ら学び、考え、行動する持続可能な社会の創り手となる「グローカルな人材」を育成します。

一人ひとりの最善の利益を第一に考え、教育DX²の推進と教育・福祉の強固な連携により、子ども・教職員・地域住民すべての「日本社会に根差したウェルビーイング」の向上を追求します。

2. 重点施策と具体的取組

① 確かな学力の定着と、教育DXによる学びの革新

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実：ICTを高度に活用し、子どもの習熟度に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と対話する「協働的な学び」を両立させます。
- 認知機能に着目した「基礎読解力¹」の底上げ：問い合わせを立て、複雑な情報を正しく理解・分析し、自らの考えを論理的に構築する力を育成します。
- 教育DXの推進と校務の効率化：クラウド活用等により「校務DX²」を推進し、教職員の働き方改革を実現し、教員が子ども一人ひとりと向き合う時間を最大化します。

② 「持続可能な社会」を担う、12年間の能勢地域連携・一貫教育

- ESD（持続可能な開発の教育）の推進：能勢の豊かな自然資本を活用し、環境保全や持続可能な社会（SDGs）を自分事として捉える探究学習³を推進します。
- 能勢課題探究の深化：産学官が連携し、職場体験に留まらず、地域の課題を中高生がビジネスやテクノロジーの視点も交えて解決策を練る、実践的なキャリア教育を展開します。
- デジタルとリアルのベストミックス：デジタル教材を積極的に活用しつつ、能勢分校等との連携による農業体験や英語交流など、リアルな体験（身体的・五感的体験）の価値を重視し、豊かな人間性を育みます。

¹ 基礎読解力…書かれていることを、文法的・論理的に、正確に読み取る力。

² 校務DX…教師の業務を効率化するとともに、多様なデジタルツールやデータの利活用により業務の質を向上させること。

³ 探究学習…問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくこと。物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのこと。

③ ウェルビーイングを支える「教育と福祉」の包括支援

- 誰一人取り残さないセーフティネットの強化：「能勢・福祉・教育プラットフォーム」を基軸に、経済的困難、不登校、虐待等の課題に組織的に対応し、子どもの安心・安全を保障します。
- 特別支援教育の質的担保：必要な専門職の配置と全教員の専門性向上を図り、インクルーシブ⁴な教育環境を深化させます。

④ 生涯学習の拠点化と関係人口⁵の創出

- 新生涯学習センター（図書館）の整備：旧久佐々小学校体育館を活用し、単なる施設を超えた「知と交流の拠点」として、多世代が集い、地域の知的資産⁶を守る場を創出します。
- 関係人口を巻き込むコミュニティの活性化：町外利用者も含めた「学びのコミュニティ」を構築し、地域文化の継承と、町全体の活性化につなげます。

3. 計画の実効性確保と評価の推進（PDCAの確立）

- エビデンスに基づく政策形成（EBPM⁷）の推進：施策の達成度を測る具体的な指標（KPI）を設定し、その成果を定期的に検証することで、計画の有効性を客観的に評価し、継続的な改善を図ります。これにより、限られた予算と人的資源を最も効果的に配分し、能勢町の教育行政が持つ説明責任を果たします。
 - 施設等の計画的維持管理：ICT環境や学校施設、社会教育施設等の老朽化に対し、長寿命化改修等を含む計画的な維持管理を実施し、安全・安心な教育環境を継続します。
 - 子育て世代への魅力発信：転入者増の要因となっている「能勢の教育の魅力」を定量的に分析し、次世代へつなげます。
-

⁴ インクルーシブ…「包括的な」「包み込む」を意味し、障がいの有無、年齢、性別、国籍、性的指向などにかかわらず、すべての人々を排除せず、認め合い、共生していく社会の考え方。

⁵ 関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

⁶ 地域の知的資産…その地域ならではの人材、ネットワーク、歴史・文化など、地域の競争力や価値の源泉となる資源の総称。

⁷ EBPM…エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。経験や勘ではなく、客観的なデータや科学的根拠（エビデンス）に基づいて政策を立案・評価・改善していく手法。